



I コマンド

この章では、I で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

in-order-guarantee

順次配信をイネーブルにするには、**in-order-guarantee** コマンドを使用します。順序どおりの配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

in-order-guarantee [*vsan vsan-id*]

no in-order-guarantee [*vsan vsan-id*] [,] [-]

構文の説明

vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
[,] [-]	(任意) カンマで区切って複数の VSAN を入力することも、またダッシュを使用して VSAN の範囲を入力することも可能です。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

データ フレームの順次配信は、送信元の送信順と同一の順番で宛先にフレーム配信することを保証します。

例

次に、順序どおりの配信をスイッチ全体でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# in-order-guarantee
```

次に、順序どおりの配信をスイッチ全体でディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no in-order-guarantee
```

次に、順序どおりの配信を特定 VSAN でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# in-order-guarantee vsan 3452
```

次に、順序どおりの配信を特定 VSAN でディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no in-order-guarantee vsan 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
show	in-order-guarantee ステータスを表示します。
in-order-guarantee	

install feature-set virtualization

スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャ セットをインストールするには、**install feature-set virtualization** コマンドを使用します。シスコ仮想マシンのフィーチャ セットを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

install feature-set virtualization

no install feature-set virtualization

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



(注)

シスコ仮想マシン機能は、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでだけサポートされます。

このコマンドには、Enhanced Layer 2 ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャ セットをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# install feature-set virtualization
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature-set virtualization	スイッチで Cisco 仮想マシン フィーチャ セットをイネーブルにします。
show feature-set	仮想化フィーチャセットのステータスを表示します。
show running-config	実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。

interface fc

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチのファイバ チャネル インターフェイスを設定するには、**interface fc** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface fc slot/port
  channel-group {group-id [force] | auto}
  fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
  fcsp {auto-active | auto-passive | on | off} [timeout-period]
  fspf {cost link-cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval seconds
  vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
  switchport

no interface fc slot/port
  no channel-group {group-id [force] | auto}
  no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
  no fcsp {auto-active | auto-passive | on | off}
  no fspf {cost link-cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval
  seconds vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
  switchport
```

構文の説明

<i>slot/port</i>	インターフェイスのスロット番号およびポート番号を指定します。
channel-group	ポート チャネルに追加するか、ポート チャネルから削除します。
<i>group-id</i>	ポート チャネル グループ番号を 1 ～ 128 の間で指定します。
force	(任意) ポートを強制的に追加します。
auto	ポート チャネルの自動作成をイネーブルにします。
fcdomain	インターフェイス モードを開始します。
rcf-reject	Reconfigure Fabric (RCF) 拒否フラグを設定します。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。
fcsp	特定インターフェイスの Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) パラメータを設定します。
auto-active	指定のインターフェイスを認証するため、auto-active モードを設定します。
auto-passive	指定のインターフェイスを認証するため、auto-passive モードを設定します。
on	指定のインターフェイスを認証するため、on モードを設定します。
off	指定のインターフェイスを認証するため、off モードを設定します。
<i>timeout-period</i>	(任意) インターフェイスを再認証するためのタイムアウト期間を指定します。指定できる範囲は 0 ～ 100000 分です (0 がデフォルトで、認証は実行されません)。
fspf	FSPF パラメータを設定します。
cost link-cost	FSPF リンク コストを設定します。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。
dead-interval seconds	FSPF のデッド インターバルを秒単位で設定します。有効な範囲は 2 ～ 65535 です。
hello-interval seconds	FSPF の hello インターバルを設定します。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。
passive	インターフェイスの FSPF をディセーブル、またはイネーブルにします。

retransmit-interval <i>seconds</i>	FSPF の再送信インターフェイスを秒単位で設定します。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。
switchport	スイッチポート パラメータを設定します。

コマンド デフォルト ディセーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface fc 1/1 - 5 , fc 2/5 - 7
```

インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

interface fc コマンドを使用すると、インターフェイス コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 5 つのコマンドを使用できます (それぞれに **no** 形式があります)。これらの 5 つのコマンドは、インターフェイス コンフィギュレーション モードだけで使用できます。

channel-group auto コマンドでは、ポート チャネルの自動作成がイネーブルになります。ポート チャネルの自動作成がインターフェイスに対してイネーブルになっている場合、古いソフトウェアバージョンにダウングレードする前、または手動で設定されたチャンネル グループのインターフェイスを設定する前に、まずこのコンフィギュレーションをディセーブルにする必要があります。

例 次に、ファイバチャネル インターフェイス 3 のポート 1 ～ 4 を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 3/1 - 4
```

次に、スロット 3 のポート 1 のファイバチャネル インターフェイスをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 3/1
switch(config-if)# no shutdown
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
	shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。

interface san-port-channel

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチの SAN ポート チャネル インターフェイスを設定するには、**interface san-port-channel** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface san-port-channel port
```

```
no interface san-port-channel port
```

構文の説明

<i>port</i>	SAN ポート チャネル インターフェイス ID。有効な範囲は 1 ～ 256 です。
-------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.1(3)N1(1)	description 、 shutdown 、および switchport キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられました。これらは個別のコマンドとして説明します。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

この例では、SAN ポート チャネル インターフェイス 3 で SAN を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
channel mode active (SAN ポート チャネル)	アクティブ ポート チャネル ポートとして SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport (SAN ポート チャネル)	SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定します。

interface vethernet

仮想イーサネット (vEth) インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface vethernet** コマンドを使用します。仮想イーサネット インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vethernet veth-id[, vethernet veth-id, ...]
```

```
no interface vethernet veth-id[, vethernet veth-id, ...]
```

構文の説明

<i>veth-id</i>	仮想イーサネット インターフェイス番号。有効な範囲は 1 ~ 1,048,575 です。 複数の仮想イーサネット インターフェイスを指定できます。必ずカンマ (,) 区切り文字を使用します。
----------------	--

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

仮想イーサネット インターフェイスを使用する前に、**feature-set virtualization** コマンドを使用してスイッチの Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco Nexus 5548 スイッチでは、最大で 1000 個の仮想イーサネット インターフェイスを作成できます。スイッチで Cisco アダプタ ファブリック エクステンダ (Adapter-FEX) をディセーブルにする前に、必ずこれらのインターフェイスを削除してください。仮想イーサネット インターフェイスを削除した後、スイッチの実行コンフィギュレーションを必ずスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。

例

次に、仮想イーサネット インターフェイス 10 のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 10
switch(config-if)#
```

次に、仮想イーサネット インターフェイスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no interface vethernet 2
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind	仮想イーサネット インターフェイスにインターフェイスをバインドします。
feature-set virtualization	スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにします。
show interface vethernet	仮想イーサネット インターフェイスの各種パラメータを表示します。
show running-config interface	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

interface vfc

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチの仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを設定するには、**interface vfc** コマンドを使用します。仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vfc vfc-id
```

```
no interface vfc vfc-id
```

構文の説明

vfc-id 仮想インターフェイス ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 8192 です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、および shutdown コマンドは interface vfc コマンドから分離されました。
5.0(2)N2(1)	仮想 E (VE) ポートのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface vfc 1 - 3, vfc 5 - 7
```

例

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを入力する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind	インターフェイスに仮想ファイバ チャンネル インターフェイスをバインドします。
description	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの目的のサマリーを入力します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport (仮想ファイバ チャンネル インターフェイス)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを仮想 E (VE) ポートとして設定します。
switchport mode trunk	イーサネット インターフェイスをトランク ポートとして設定します。

■ interface vfc